

～のびようともにとくましく～

研究紀要

亀山市立亀山南小学校



教育大綱 基本方針－1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本計画

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。





学校教育目標

自ら学ぶ力・仲間とみがき合う力を育み、地域とともに歩む明るい学校
～のびよう ともにたくましく～

研究主題

考えや思いを主体的に表現する子の育成
～「やってみたい・伝え合いたい・深め合いたい」を目指した授業づくり～

研究主題設定の理由

① 児童の実態

学習や各種活動に落ち着いて真面目に取り組む児童が多い。規範意識が高く、自らルールを守り、出された課題に一生懸命向き合おうとする姿が見られる。児童会活動や休み時間には学年を問わず仲よく関わり合っている。授業においてはグループ活動やペア学習など小集団の中で考えを交流したり、学び合ったりすることができつつある。一方で、クラス全体の場で自分の考えを意欲的に発言する子に偏りが見られることや、自分の言いたいことを言って満足し相手の話を聞いてその内容を捉えたり感想を持ったりすることが苦手であるなど、「話す・聞く」面での課題がある。また「書く」面においては、文章資料を読み解き、自分なりの考えをまとめて表現することに苦手意識を持っている児童が多い。

② これまでの取組、これまでの成果・課題

昨年度までは、課題解決に向け、子どもたちが見通しをもって取り組むことができる授業づくり、授業スタイルづくりに取り組んできた。研究の手立てとして（１）「めあて・まとめ・ふりかえり」の充実（２）言語活動の充実（３）家庭学習の充実による学習習慣づくり（４）安心して学べる環境づくりの４点に取り組んできた。特に研究授業において、子どもに「教えるところ」と「考えさせるところ」を授業者が意識して授業に臨んだ方が良いのではないか、また子どもの自己有用感を育む手立てが必要ではないかという点が課題として出された。

研究主題について

上記のような実態をふまえ新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置き、どのような実践を行うと言語活動を基盤とした主体的で対話的な授業づくりにつながるのか、またそれが子どもたちにとって深い学びとなるにはどうすればよいか、研修を進めていくようにしたい。

研究構想図

研究領域
算数科・道徳科

めざす子ども像



- ・見通しをもって、学習に取り組むことができる子
- ・進んで課題を解決し、表現しようとする子
- ・相手を思いやる（やさしさ、言葉使い、待つ、譲る）ことができる子

主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり
授業で子どもを育てる

1. 見通しをもった授業づくり
2. 言語活動の充実
3. 家庭学習の充実による学習習慣づくり



4. 安心して学べる環境づくり
～自分と他者を大切にできる心を育てる～
道徳科の授業づくり 人権学習

○子どもの名前を呼ぶ。
○教室の中に「ありがとう」を増やす。

つきたい力

- ・学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力
- ・「やってみよう」という自ら学びに向かう力
- ・互いの意見・考えを伝え合い協働する力
- ・言葉で理解したり、表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める力

具体的な取組

算数科・道徳科の授業づくり

1. 見通しをもった授業づくり
2. グループ・ペアなどの小集団での学び合い・伝え合いの充実
3. 言語活動の充実

学力の保障

- ・言語活動を充実した各教科の授業づくり
- ・チャレンジタイム
金曜日の放課後に設定。国語科・算数科の補充学習を行う
- ・朝学習
- ・家庭学習
〈自主学習、作文、音読の継続実施〉
※キラキラノートの森を1階廊下に設置
各学年の充実した自主学習ノートを掲示し、他学年の学習方法を知る機会につなげる
〈チャレンジ週間の実施〉
※毎学期、家庭と連携してチャレンジ週間を実施
各自が学習時間及び運動時間、メディアに接する時間の目標を設定し、目標達成を目指して取り組む
- ・読書活動
※学校司書及び学校図書館アドバイザーと連携した読書指導
※地域の方によるおはなし隊ボランティア



安心して学べる環境づくり

- ・道徳科の授業づくりの充実
- ・人権学習の充実
- ・学級づくりレポートの交流 年間2回実施
- ・Q-U、人権アンケートと教育相談の実施
- ・教師が子どもを認めるとともに、子ども同士が互いを認め合う場の設定



1 単位時間の授業イメージ

山場

課題の把握

見通しをたてる

自力解決

ペア・集団で

全体交流

適用問題（算数）

まとめ



～すべての教職員ですべての子を育てる～